

[令和5年度見学会結果]

暑さにも負けず、本年 9 月に休止・新に新規事業を展開する JFE スチール(株)東日本製鉄所を見学いたしました!

JFE スチール(株)東日本製鉄所は京浜工業地帯の大型プラントのシンボルとして 1970 年に開業した製鉄所で、この度、2050 年に向けて Co2 削減に取り組む一端として製鋼設備の再構築を目指して、京浜地区に存在する施設の統合と扇島の新たな利用方法に 2023 年度から着手することになり、そこで、毎年 10 月に見学会を実施していましたが今回は開催を早め、本年 9 月に高炉等上工程が休止・新に新規事業を展開する JFE スチール(株)東日本製鉄所の見学を見学いたしました。

8月29日(火) 12時30分、横浜駅東口広場に18名が集合、マイクロバスにて扇島の JFE スチール(株)東日本製鉄所に予定時刻の13時20分に到着、既に玄関に、室田康弘厚板室室長(部長)をはじめ4名の方々に迎えられ会議室に案内されました。

13時30分、室田部長の歓迎の挨拶に続き、東日本製鉄所の概要及び本年9月19日をもって製鉄所の高炉等上工程が休止になるとの説明を受けました。

用意された上着にヘルメット、眼鏡を着用し、見学はバスも利用しながら、まず、原料ヤードを見学しバスを下りて工場内に入り高炉を見学しましたが、丁度、300tの容量の転炉は溶解された原料で真っ赤に燃える炎で染まっており、その中に更に原料を入れている光景はもの凄い迫力で、やがて休止されるとあって見納めとの感も致しました。

引き続き、工場内に入り製鋼工場の見学に移り、加熱炉から1000度を超える加熱で真赤になった大きなインゴットが出てくると自動的に国内最大の圧延機で数回圧延され、下工程へと移動していきました。工場内は猛暑の中で熱気につつまれておりましたが、大汗をかく迄には至りませんでした、表に出ると外が涼しいと感じるほどでした。

原料ヤード、高炉、製鋼工場、厚板工場、出荷岸壁を見学しましたが、工場内には信号機があるほど広さで、正に重工長大のプラントそのものでした。

見学を終え、質疑を交えての休憩に入りましたが質問が後をたたく30分を要しました。引き続き、「JFE スチール(株)東日本製鉄所京浜地区の高炉休止に伴う土地利用方針」について、稲葉知哉建築プロジェクト室主任より説明があり、膨大な土地の利用計画の概要について説明いただき、予定の時間をオーバーした16時45分に長時間対応いただいたことにお礼を述べ、製鉄所を後にしました。



17時40分に懇親会会場の「大珍楼」に到着、懇親会のみ参加の6名に加え JFE スチール稲葉氏にも参加いただき、山口喜久雄事業部長の挨拶と乾杯、暑さに耐えてのビールは旨く喉を潤しました。

当会の歓談はいつも和やかで、今回も予定時間を過ぎた19時25分、花本心副会長の中締めでお開きとなりました。